

機関リポジトリの将来像

図書館総合展

「機関リポジトリからみた管理・検索基盤」

2021年11月9日

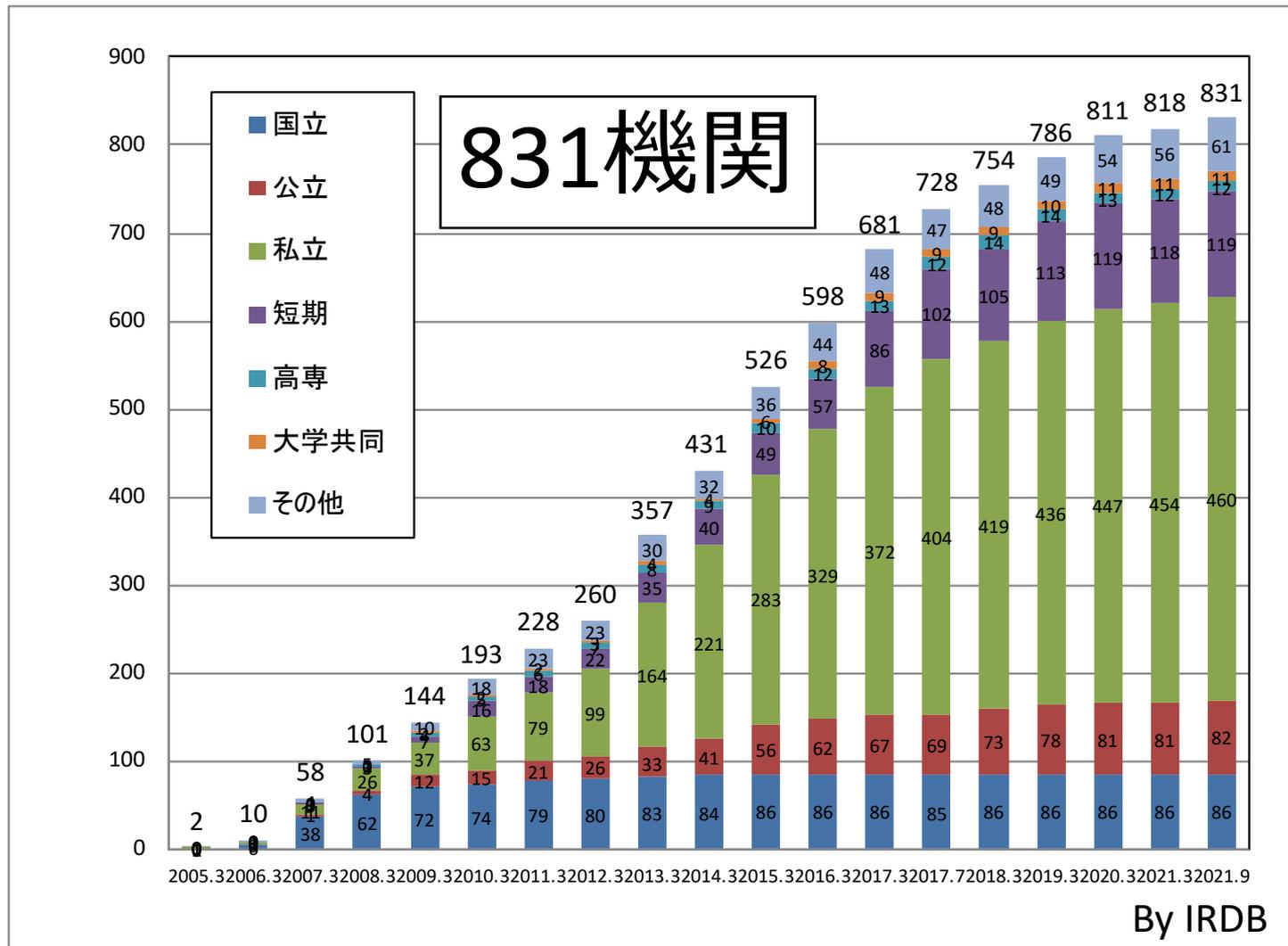
国立情報学研究所 オープンサイエンス研究センター

林正治

本日の内容

- 機関リポジトリの現状
- 機関リポジトリを取り巻く動き
- 機関リポジトリの方向性

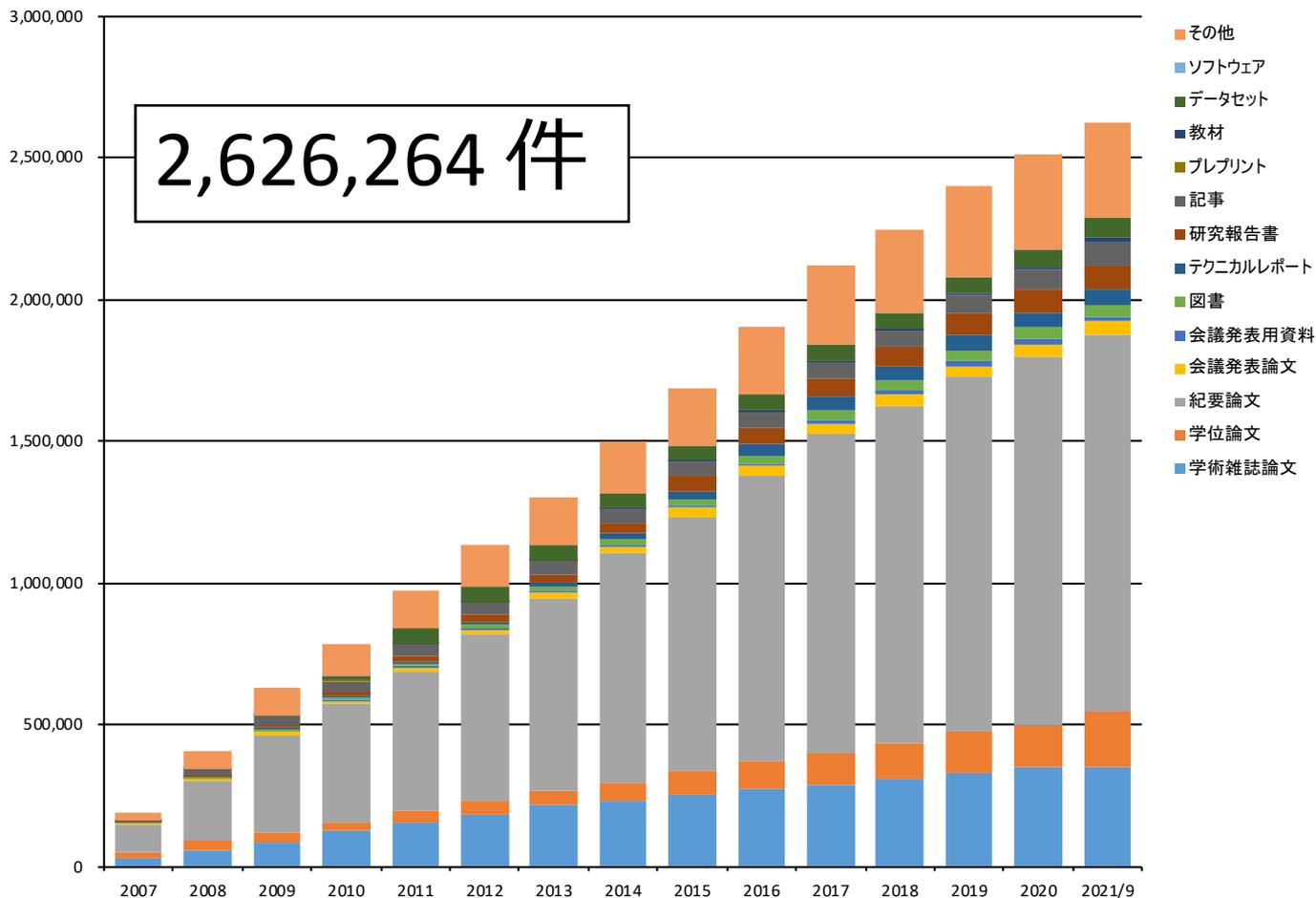
機関リポジトリ公開機関数の推移



近年は短大、その他機関によるIR公開が微増

機関リポジトリのアイテム登録数推移

本文登録アイテムのみ

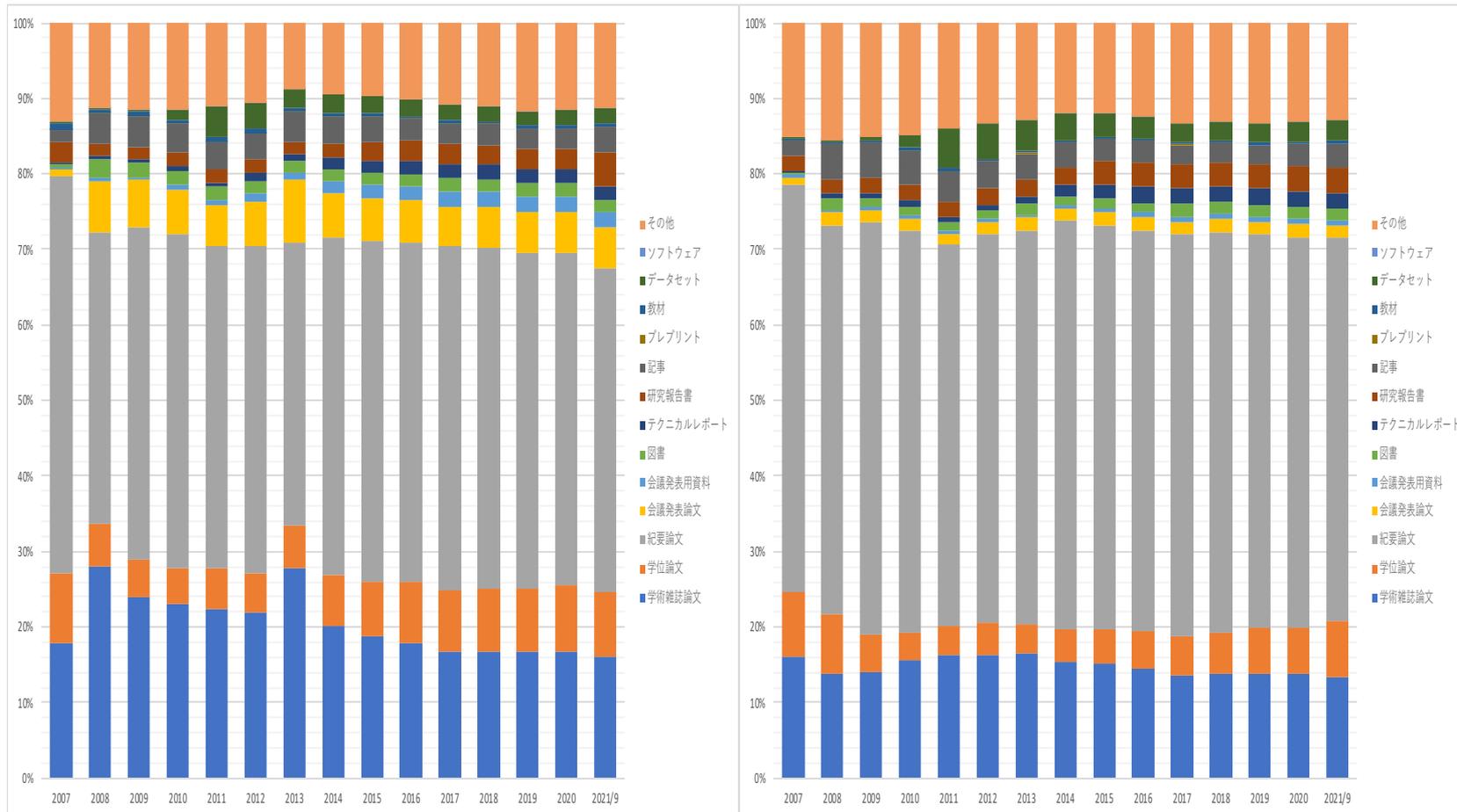


IRに登録される本文数も順調に増加

機関リポジトリのアイテム登録数推移

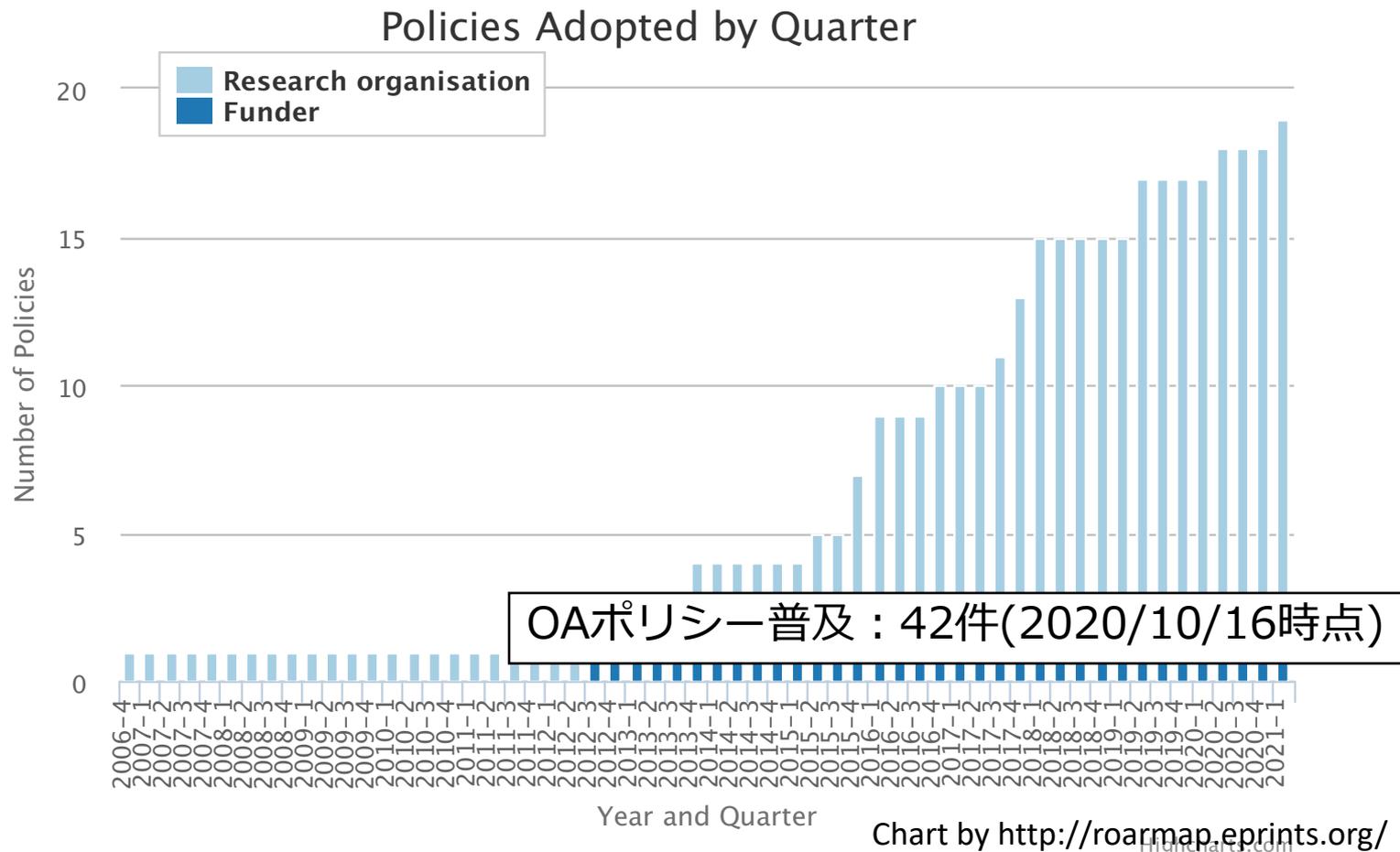
すべて

本文あり



会議発表論文の本文収録数が低いのが目立つが、
資源タイプ別の登録割合に変化はみられない

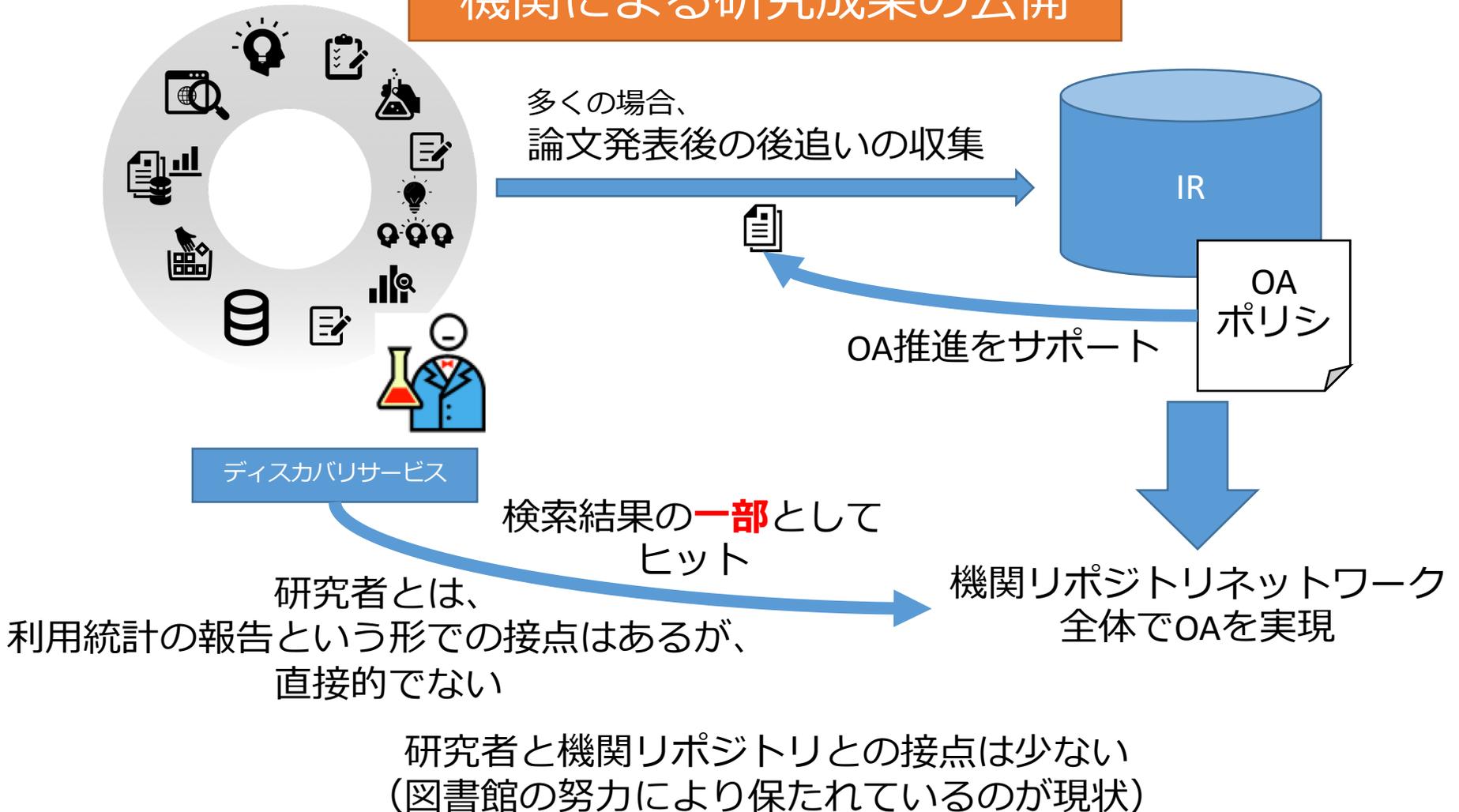
OAポリシー策定数の推移



OAポリシー策定率は伸び悩んでいる（捕捉できていないだけ？）

機関リポジトリによる研究成果公開の課題

機関リポジトリの役割 機関による研究成果の公開



研究データ管理・公開に関する政策

- **第6期科学技術・イノベーション政策において目指す主要な数値目標（主要指標）**
 - 機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人において、**2025年までに、データポリシーの策定率が100%**
 - 公募型の研究資金の新規公募分において、**2023年度までに、データマネジメントプラン（DMP）及びこれと連動したメタデータの付与を行う仕組みの導入率が100%**
- **公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方**
 - 4. 研究開発を行う機関の責務
 - 公的資金により得られた研究データの機関における管理・利活用を図るため、**研究開発を行う機関は、データポリシーの策定を行うとともに、機関リポジトリへの研究データの収載を進める**。あわせて、研究データ基盤システム上で検索可能とするため、研究データへのメタデータの付与を進める。
 - 4-1. データポリシーの策定
 - 機関リポジトリを有する全ての大学・大学共同利用機関法人・国立研究開発法人においては、2025年までにデータポリシーを策定※2025年までには、**国立大学法人、大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人のみと注あり**
 - 4-2. 機関リポジトリへの研究データの収載と研究データへのメタデータの付与の推進
 - **研究者による機関リポジトリへの管理対象データの収載の推進**
 - 分野別リポジトリや汎用リポジトリへの管理対象データの収載でも、**研究データ基盤システム上での検索を可能とするために、管理対象データへのメタデータの付与を推進**
 - 4-3. 研究データマネジメント人材・支援体制の整備及び評価
 - **リポジトリの安定的な運営等、また、研究データの管理・利活用に対する各部署における役割の明確化**

ナショナルポリシーの策定が進行
その対応に向けた具体的な検討・取り組みが必要

NII研究データ基盤 (NII Research Data Cloud)



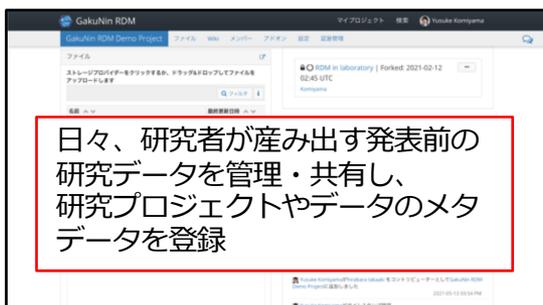
公開前の研究データの管理・共有

研究データの一般公開

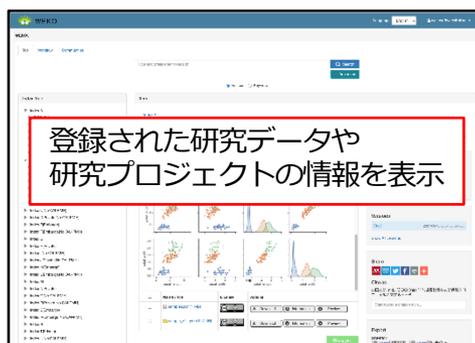
研究者・一般市民からの検索、
公開データへのアクセス



①GakuNin RDM



②JAIRO Cloud (WEKO3)

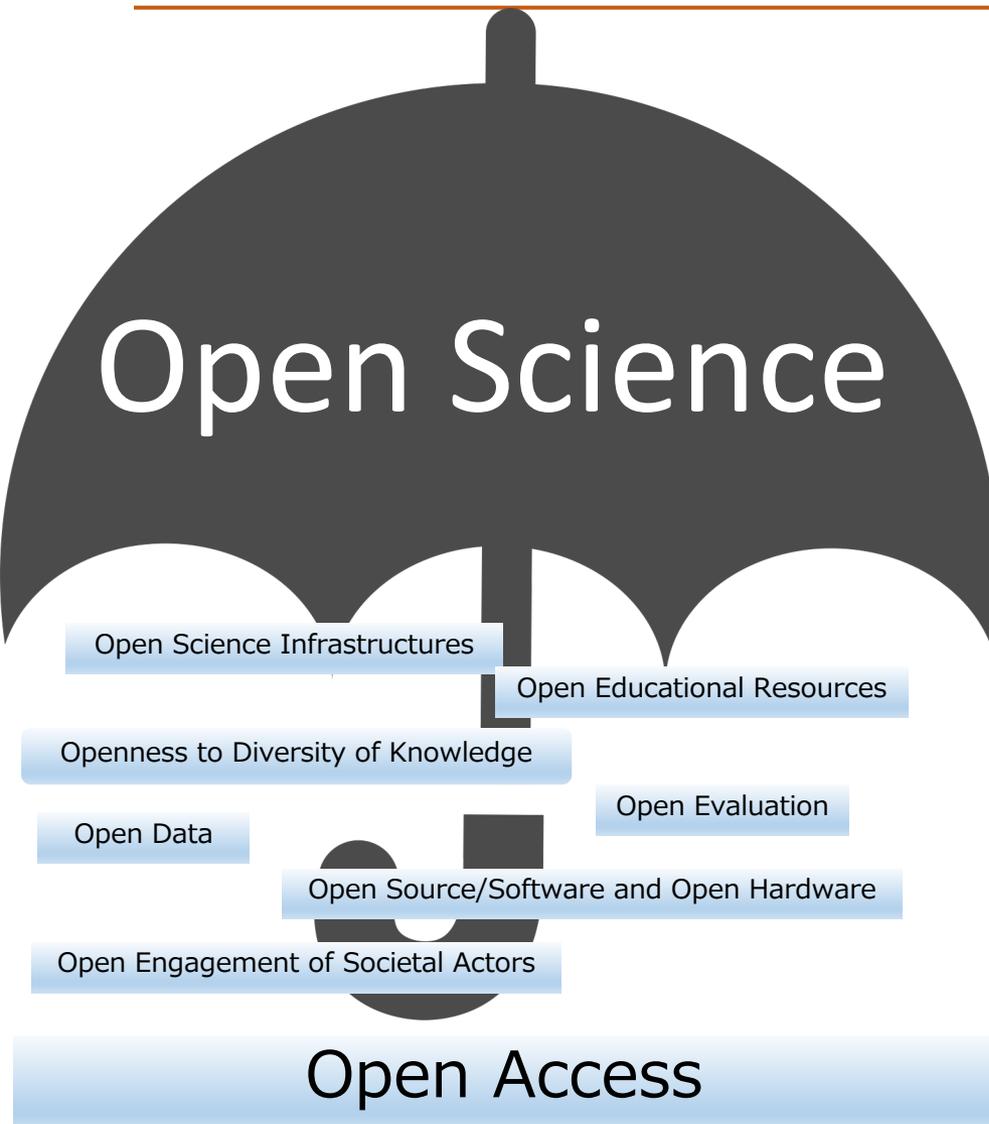


③CiNii Research



研究者によるセルフアーカイブの強化

研究データ対応だけで十分か？



オープンサイエンス

発見の加速：

科学的結論とその根拠への
アクセスを最大化,
科学の実践と厳密さを維持・促進

共通利益の最大化：

科学的結論とその根拠の
再利用や組み合わせを最大化

社会還元：

科学的プロセスへの関与と参加を最大化,
社会的影響を増大

論文のOAはOSの基礎
OA推進の継続は必要

短期的な動き

• 研究データ対応

- データポリシーの策定
 - 国立大学が先行実施
- 公的資金成果物へのメタデータ付与
 - 研究データの機関リポジトリへの登録が推奨

• OA推進

- 機関リポジトリの運用見直し
 - データポリシー策定、公的資金成果物へのメタデータ付与等により、機関としての機関リポジトリの再定義を行う機会が到来
- セルフアーカイブによるOA推進
 - セルフアーカイブによる研究データ登録の機会が到来。論文OA推進。機関リポジトリ収録対象の見直し

• NII RDCとして公的資金成果物へのメタデータ付与フローの実現

- JAIRO Cloud(WEKO3)→JAIRO Cloud(WEKO3)移行
 - 移行の完了、安定稼働の実現
- GakuNin RDM→JAIRO Cloud(WEKO3)→CiNii Research連携
 - 研究データ登録、公的資金成果物へのメタデータ付与を実現するフローの確立

長期的な動き

• 研究者の研究活動に機関リポジトリを取り込む

- 研究者によるセルフアーカイブが研究活動の一つになるようにする。機関リポジトリに保存された研究成果の利活用を促進する必要がある。

• 機関リポジトリ運用格差への対応

- 研究データ対応の重要度は機関によって異なる。OA推進もすべての機関が対応できている状況ではない。機関単独対応が困難な事態への対策が必要。コミュニティとしてのサポートが必要となる。

• NII RDCとして研究者中心のサービス構築

- 研究活動支援の強化し、研究者、機関に積極的に利用されるサービスを提供する。機関リポジトリが研究者にとっての研究成果の流通基盤となるようにする。
- 機関単独対応が困難な状況を支援できるよう、先行機関の知見を踏まえ、サービスを設計・構築をしていく。

機関リポジトリを
機関による研究者向けの必須サービスとして位置づける
研究データ対応について
機関リポジトリを有する全機関をサポートできる体制をつくる

RCOS

<https://rcos.nii.ac.jp>

mhaya@nii.ac.jp